



第17号

2013 / 9

バスロケーションシステム・デジタルサイネージ
リアルタイム時刻表の意義

バスに乗る際に一番気になるのは「一番早く目的地へ向かうバスはどののりばから出発するか」ではなからうか。従来なら配布されている紙の時刻表を見比べるか、現地でバス停の発車時刻を見ることしかなかった。このほど岡山駅には『えきバス時刻表』（デジタルサイネージ）の表示機が【在来線中央改札口前・新幹線改札口前・岡山駅バス総合案内所】の3ヶ所に設置をされた。岡山駅バスターミナルを出発するバスの発

車時刻・行先・おもな経由地・のりばを発車時刻順に表示しており、従来の手間を考えれば一覧になっている利便性はあるものと考えられる。現在のところ『えきバス時刻表』はロケーションシステムによるバスの遅れには対応していないので、あくまでも所定の発車時刻を表示している。

『えきバス時刻表』より早く、宇野バスは独自にバスロケーションシステムの表示機を設置している。現在では岡山駅バスターミナルをはじめ、岡山駅前（ドレミの街・中銀前）・表町入口・表町バスセンター・県庁前・原尾島住宅などに設置をされている。バスの走行位置も検出しており、「〇〇行きは××バス停を発車しました」「〇〇行は間もなくまいります」といったアナウンスも



してくれる。デジタルサイネージは倉敷駅にも設置されている。改札を出た正面に設置されており、南口（児島・茶屋町・水島方面）・北口（イオンモール倉敷方面）発着のバス路線と、水島臨海鉄道の発車時刻が一覧表示されている。

これまでの“不便”と思っていたところを手助けしてくれる表示機であるので、岡山駅だけでなくターミナルなど乗降客の多い停留所には設置が進めばと思う。

なお『えきバス時刻表』は携帯・スマートフォンでも閲覧できます。
<http://okajam.jp/signage/mob/>
(松田和也)



第11回
全国バスマップサミット
in 高松
～つなげる公共交通～
開催：9月15～16日
会場：高松市丸亀町(レッツホール)
申込締切：9月6日
HP：<http://grutto.g.hatena.ne.jp>
問合せ：busmap.h25@gmail.com



私の人生最大の夢は「電車の運転士」になること。幼い頃に芽生えたこの夢は、何十年も自分の原動力になっていました。

学生時代から鉄道にハマリ、全国各地を回りながら鉄道の魅力にさらに惹かれていきました。

「なんてカッコいいんだろう」「なんてすばらしいシステムなんだろう」と、鉄道の魅力とその存在感に夢中な学生生活でした。

しかし、“今”に夢中になるばかりに、いつしか夢を忘れ、何も目標を持つこともなく、ただダラダラと好きなことに奔る自分になっていました。

そのせいで、思い描いていた夢とは違う方向へ進み出し、気づいた時には完全に軌道を逸れていました。

後悔をもの凄くしました。なぜもっと夢を実現させるために努力をしなかったのか、段々自分を責めるようになっていきました。

「もし、まだチャンスがあるなら、挑戦するだけしてみよう。ダメだったら自分には無理だったんだと思えばいい。

チャレンジしないほうが後で絶対に苦しい思いをする。」やはり「夢」を諦めきることはできなかったのです。

就職をしていましたが、「退職願」を書きました。今の生活を壊し、考え直し、すべて最初からやり直すことに決めました。



退職後は職も何もなく、からっぽの状態、自信も何もなく、どうしたらいいのか不安でいっぱいでした。

しばらくして、専門学校に入学。まさかの2回目の学生生活が始まりました。私は高校卒業後2年間働いていたので、クラスのメンバーは皆年下でした。別にそこまで気にはなりませんでしたが、「ああ、自分は変わった奴なんだな」と少し思いつつ、必死にカリキュラムをこなしていきました。

もちろん入学前から卒業後の就職先は今現在の会社しか考えていなかったもので、クラスのメンバーが何社も受験するなか、私はほかの会社は一切受験しませんでした。

そして、入学してから2年目の秋、ついに運命の合格通知が届きました。体の底から身震いがしました。諦めないでよかったと本当に思いました。夢へと大きく前進した瞬間でした。

それから駅、車掌を経験し、入社してから5年目によりやく夢が現実になりました。

周りからは「夢を叶えるなんて凄い」と言われたりします。確かに凄いかもかもしれません。しかし、これは決して自分だけの力で実現したのではなく、周りの多くの方々を支えてくださった結果であると思うので、それを忘れてはいけな、そして感謝しきれません。

夢は一人だけの力では実現できない。みんなの願いが集まれば、きっとそれは叶う。諦めてはいけない。諦めきれぬ夢なんて夢じゃない。

そして、一度っきりの人生を思いっきり楽しむことが夢実現への一歩になると思います。

(井伊洋之)

